

第 6 章

子育て生活の地域差

福本 優美子



第1節

地域別属性

郡部では、多くの母親が「パート」か「常勤」であり、6割以上が何らかのかたちで働いている。また、郡部では、半数近くが「三世代同居家族」である。さらに、父親、母親の平均年齢はともに、首都圏、郡部、地方都市の順番で高い。

この章では、地域別の分析を行う。今回の調査地域である首都圏(3477人)、地方都市(463人)、郡部(332人)では、それぞれどのような特徴がみられるであろうか。

最初に、地域別の各種属性をみておこう。

まず、回答者である母親の就労状況を地域別にみると(図6-1)、「専業主婦」の割合は、首都圏49.2%、地方都市52.7%、郡部26.5%であり、首都圏、地方都市の約半数は「専業主婦」である。「パート」は、首都圏27.3%、地方都市23.3%、郡部33.7%である。「常勤」は、首都圏18.1%、地方都市16.4%、郡部34.9%である。「パート」と「常勤」を合わせると、郡部では68.6%が何らかのかたちで仕事をしていることになる。

次に、家族構成についてみてみよう(図6-2)。家族構成について、「核家族(父親・母親と子どもだけ)」、「三世代同居家族(親子と祖父母、祖父だけ・祖母だけでも含む)」、「その他」のなかから選んでもらった。「核家族」は、首都圏78.9%、地方都市81.6%、郡部45.2%と、首都圏、地方都市に多い。また、「三世代同居家族」は、首都圏16.8%、地方都市13.2%、郡部49.1%であり、郡部で

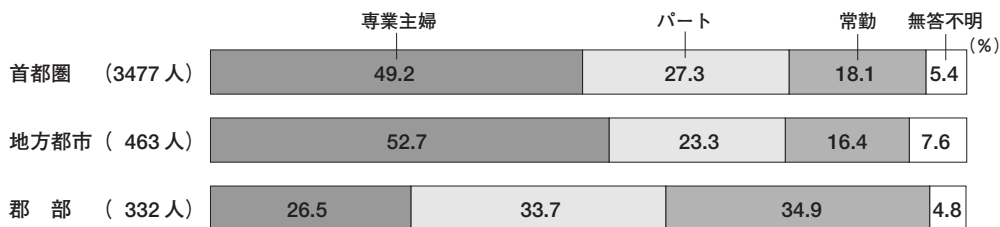
は半数近くが「三世代同居家族」だということが特徴的である。

また、父母の平均年齢も地域別にみたのが表6-1である。子どもにとっての母親の平均年齢は、首都圏34.6歳、地方都市32.9歳、郡部34.0歳、子どもにとっての父親の平均年齢は、首都圏37.1歳、地方都市35.4歳、郡部36.5歳である。母親、父親ともに、平均年齢は、首都圏、郡部、地方都市の順番で高い。

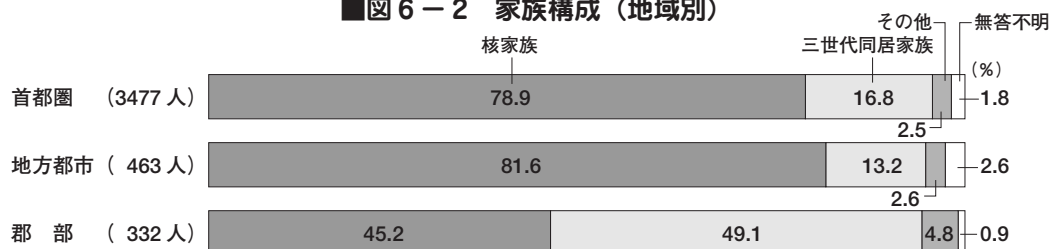
最後に、母親と父親の学歴を検討しよう。まず、母親の学歴であるが(図6-3①)、それぞれの地域で一番多い学歴は「高校まで」(首都圏35.1%、地方都市35.2%、郡部58.4%)であるが、郡部では「高校まで」で約6割を占めるのに比べ、首都圏、地方都市では、「専門学校・各種学校まで」「短期大学まで」「四年制大学まで」の割合も高い。

一方、父親の学歴は母親の場合と傾向が異なる(図6-3②)。首都圏、地方都市の父親の一番多い学歴は、「四年制大学まで」(首都圏41.3%、地方都市37.1%)であるが、郡部の父親の一番多い学歴は、「高校まで」54.5%である。

■図6-1 母親の現在の就労状況(地域別)



■図6-2 家族構成(地域別)

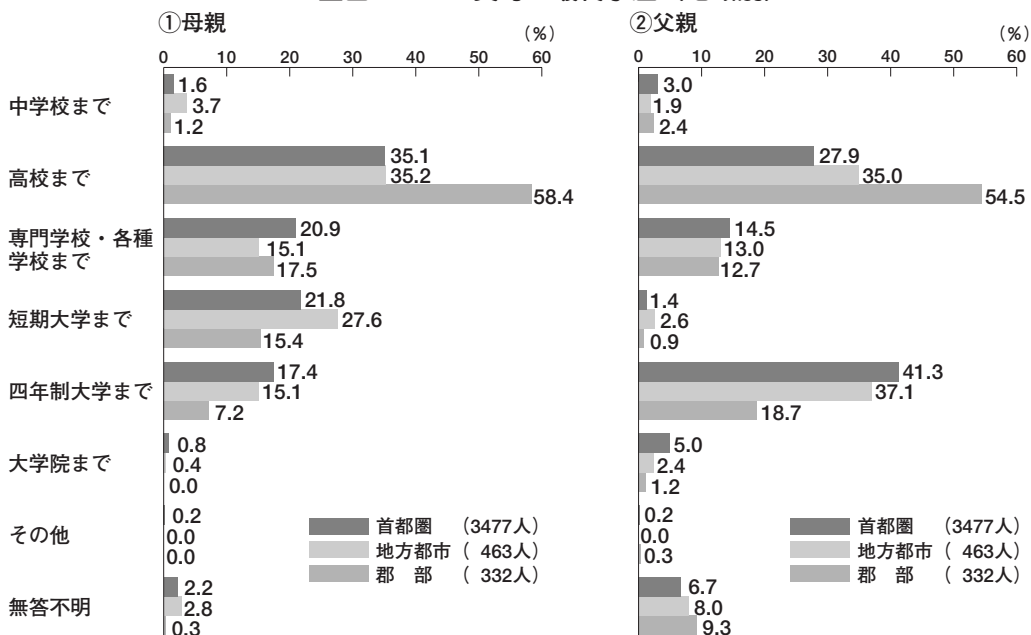


■表6-1 父母の平均年齢(地域別)

	(歳)	
	子どもにとっての母親の年齢	子どもにとっての父親の年齢
首都圏	34.6	37.1
地方都市	32.9	35.4
郡部	34.0	36.5

注1) 首都圏の父母の平均年齢は、母親有効回答3246件、父親有効回答3119件を母数として算出している。
 注2) 地方都市の父母の平均年齢は、母親有効回答427件、父親有効回答411件を母数として算出している。
 注3) 郡部の父母の平均年齢は、母親有効回答304件、父親有効回答281件を母数として算出している。

■図6-3 父母の最終学歴(地域別)



第2節

子どもとのかかわりと悩みや気がかり

郡部では、約7割がほとんど毎日、「家族みんなで食事をする」と回答しており、首都圏や地方都市と比べるとその割合は15ポイント以上も高い。また、子育ての悩みや気がかりは、どの地域でも「犯罪や事故に巻き込まれること」が第1位であるが、地方都市で「しつけのしかた」が他の地域に比べて高いのが特徴的である。

◆◆家庭で子どもとすること

それぞれの家庭で母親が子どもとすることについてその頻度をきいた。地域によって家庭で母親と子どもがすることに違いはみられるのであろうか。「ほとんど毎日」の割合を地域別に比較したのが図6-4である。

他の地域に比べて首都圏の割合が高いのは、「子どもに一日の出来事を聞く」(首都圏82.5%、地方都市79.7%、郡部76.5%)、「子どもに家事を手伝わせる」(首都圏26.0%、地方都市22.0%、郡部20.8%)である。地方都市で高いのは、「子どもと一緒に遊ぶ」(首都圏45.2%、地方都市54.9%、郡部48.2%)である。また、郡部でその割合が高いのは、「テレビの幼児向け教育番組を見せる」(首都圏57.7%、地方都市56.8%、郡部63.9%)、「家族みんなで食事をする」(首都圏46.8%、地方都市51.8%、郡部69.9%)、「絵を描いたり、粘土や折り紙で遊んだりする」(首都圏23.5%、地方都市20.1%、郡部29.2%)であ

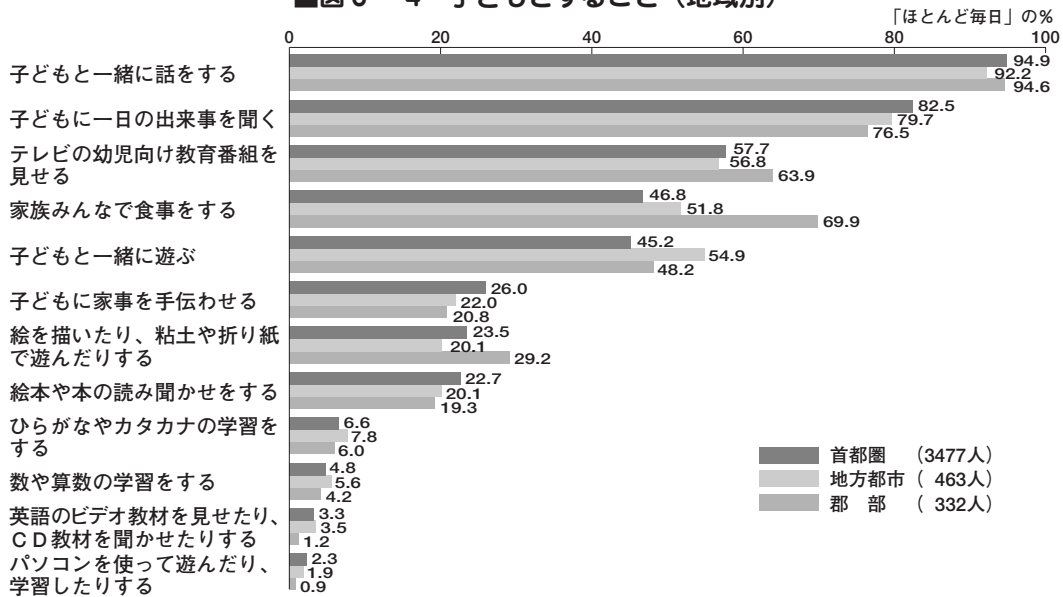
る。なかでも、「家族みんなで食事をする」は、郡部のその割合が、首都圏や地方都市と比べると15ポイント以上も高い。

◆◆子育ての悩みや気がかり

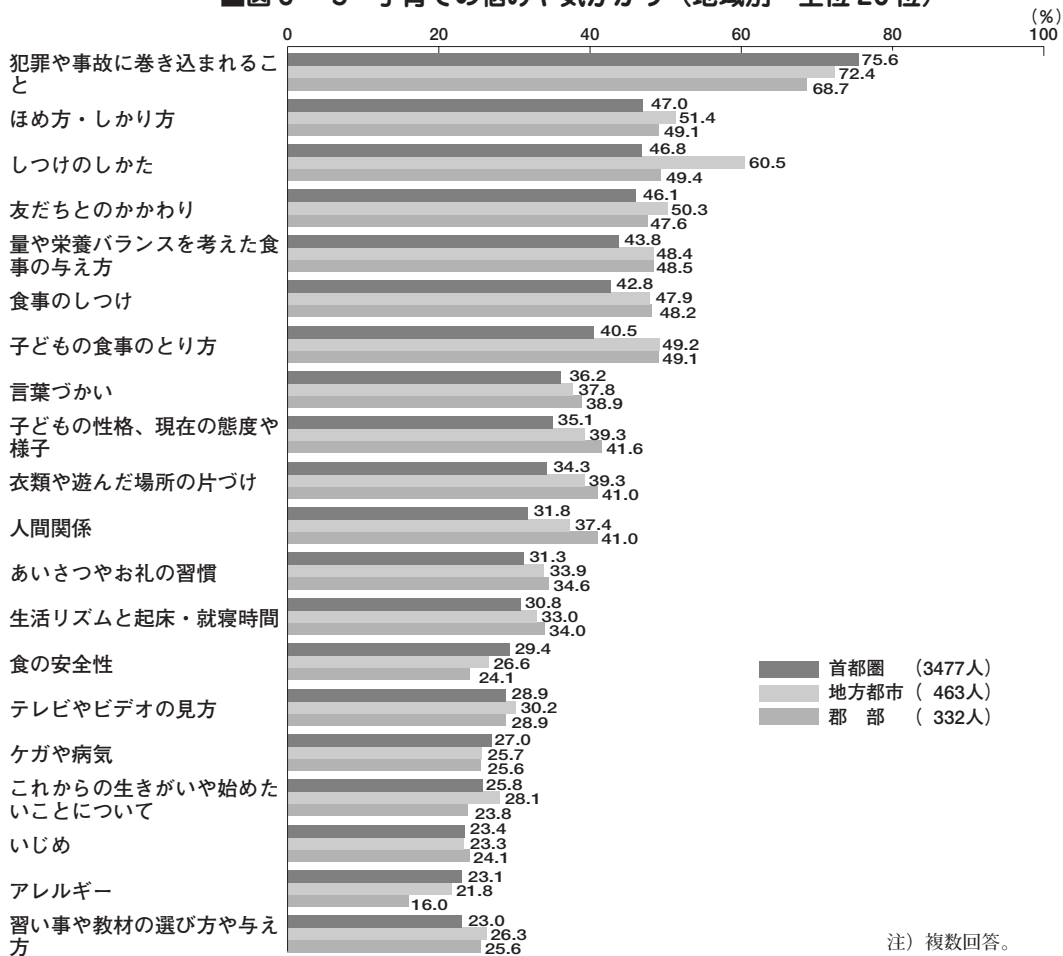
次に、子育ての悩みや気がかりについて地域別にみた(図6-5)。まず、地域にかかわらず、「犯罪や事故に巻き込まれること」を悩みや気がかりとしてあげている割合が高い。今や、どのような環境に暮らしていても、犯罪や事故に巻き込まれてしまうのではないかという危険性を母親が感じているというあらわれであろう。

また、しつけ、食事に関することを悩みや気がかりとしてあげる割合も地域にかかわらず高い。しかし、そのなかでも「しつけのしかた」については地方都市だけが60.5%と首都圏(46.8%)、郡部(49.4%)に比べて10ポイント以上高い。

■図6-4 子どもとすること(地域別)



■図6-5 子育ての悩みや気がかり(地域別・上位20位)



注) 複数回答。

第3節

教育選択

幼稚園・保育園選びの際には、首都圏、地方都市では約7割の母親が「よく考えた」あるいは「まあ考えた」と答えているが、郡部では44.6%にとどまる。また、将来、子どもに希望する進学段階は、首都圏、地方都市では「四年制大学まで」以上を希望する割合が高い。

◆◆幼稚園・保育園選び

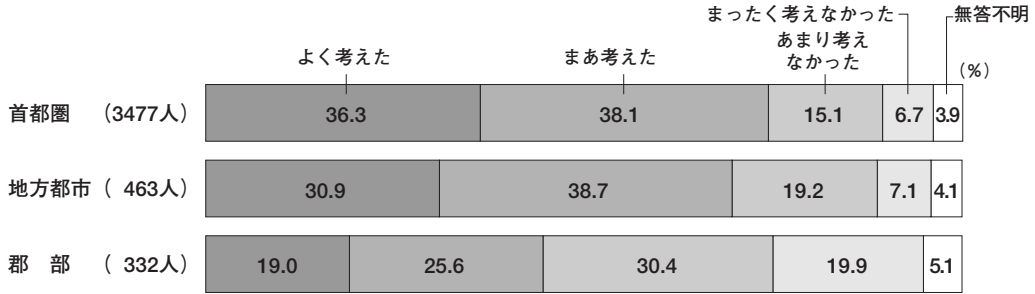
子どもが通う幼稚園や保育園を選ぶときに地域別に違いはあるのだろうか。図6-6に示したのは、「幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」という設問に対する回答である。首都圏、地方都市では約7割の母親が「よく考えた」あるいは「まあ考えた」と答えている。一方、郡部では「あまり考えなかった」＋「まったく考えなかった」の合計が50.3%と、半数が「考えなかった」と回答している。郡部の場合、そもそも選択肢が少ないということに加え、首都圏、地方都市に比べ働いている母親が多いので(第1節参照)、その働く条件に合う園を必然的に選んでいるということがあるようだ。

◆◆希望する進学段階

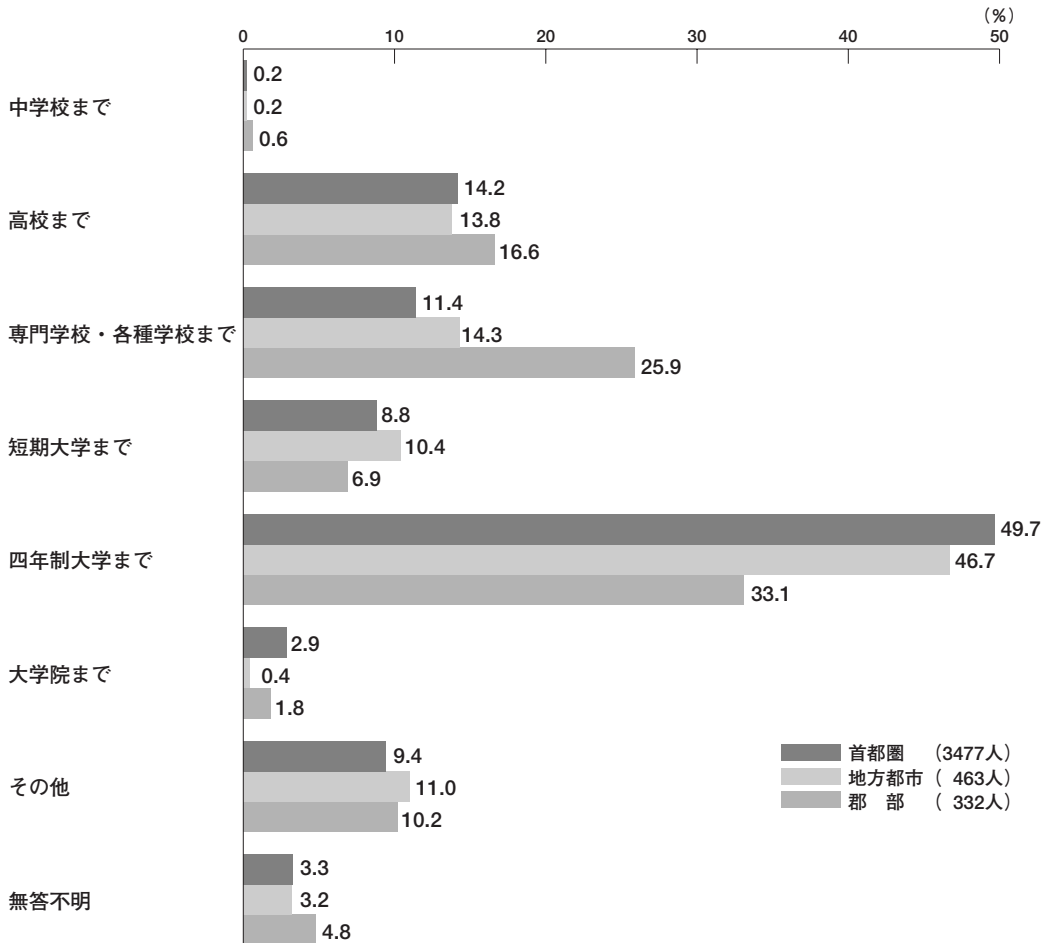
それでは、将来の進学について今の段階で母親はどのような希望をもっているのだろうか。「お子様をどこまでの学校へ進学させたいとお考えですか」という設問への回答を示したのが図6-7である。

明らかに、首都圏、地方都市のほうが郡部よりも高学歴志向であり、約半数が「四年制大学まで」を希望している(首都圏49.7%、地方都市46.7%)。その一方で、郡部では、「高校まで」(16.6%)、「専門学校・各種学校まで」(25.9%)という希望が他の地域よりも高く、「四年制大学まで」という希望は33.1%にとどまる。

■図6-6 幼稚園・保育園選択(地域別)



■図6-7 希望する進学段階(地域別)



第4節

習い事

首都圏、地方都市では習い事をしている割合は5割以上だが、郡部では3割にとどまる。習い事の内容は、首都圏と地方都市では大きな差はないが、その両地域と郡部は大きく異なる。「英会話などの語学教室や個人レッスン」を郡部でやっている割合は、首都圏の4分の1である。

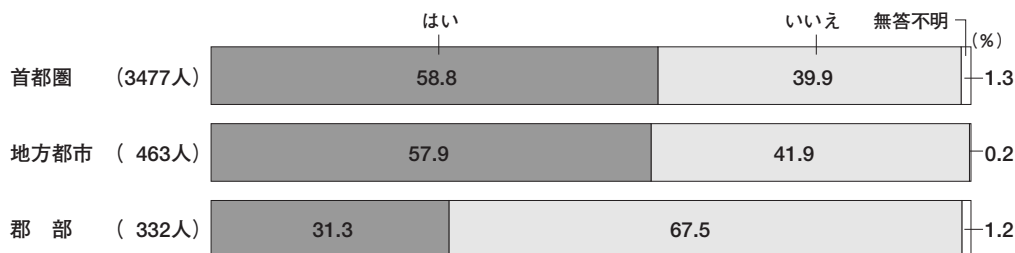
次に、習い事について検討しよう(図6-8)。「現在、お子様は習い事、スポーツクラブ、通信教育などをしていますか」という設問に対して、「はい(している)」という回答は、首都圏58.8%、地方都市57.9%、郡部31.3%と、郡部での習い事の割合はだいぶ少ない。郡部では、習い事自体が少なく選択肢が限られているという側面も影響しているだろう。

では、習い事の内容については地域別の特徴はみられるだろうか(図6-9)。まず、首都圏と郡部で一番多い習い事は、「定期的に教材が届く通信教育」(首都圏23.1%、郡部15.7%)である。一方、地方都市で一番多い習い事は、「スイミングスクール」23.8%である。また、それぞれの地域の習い事の内容の上位3つをみると、首都圏は、「定

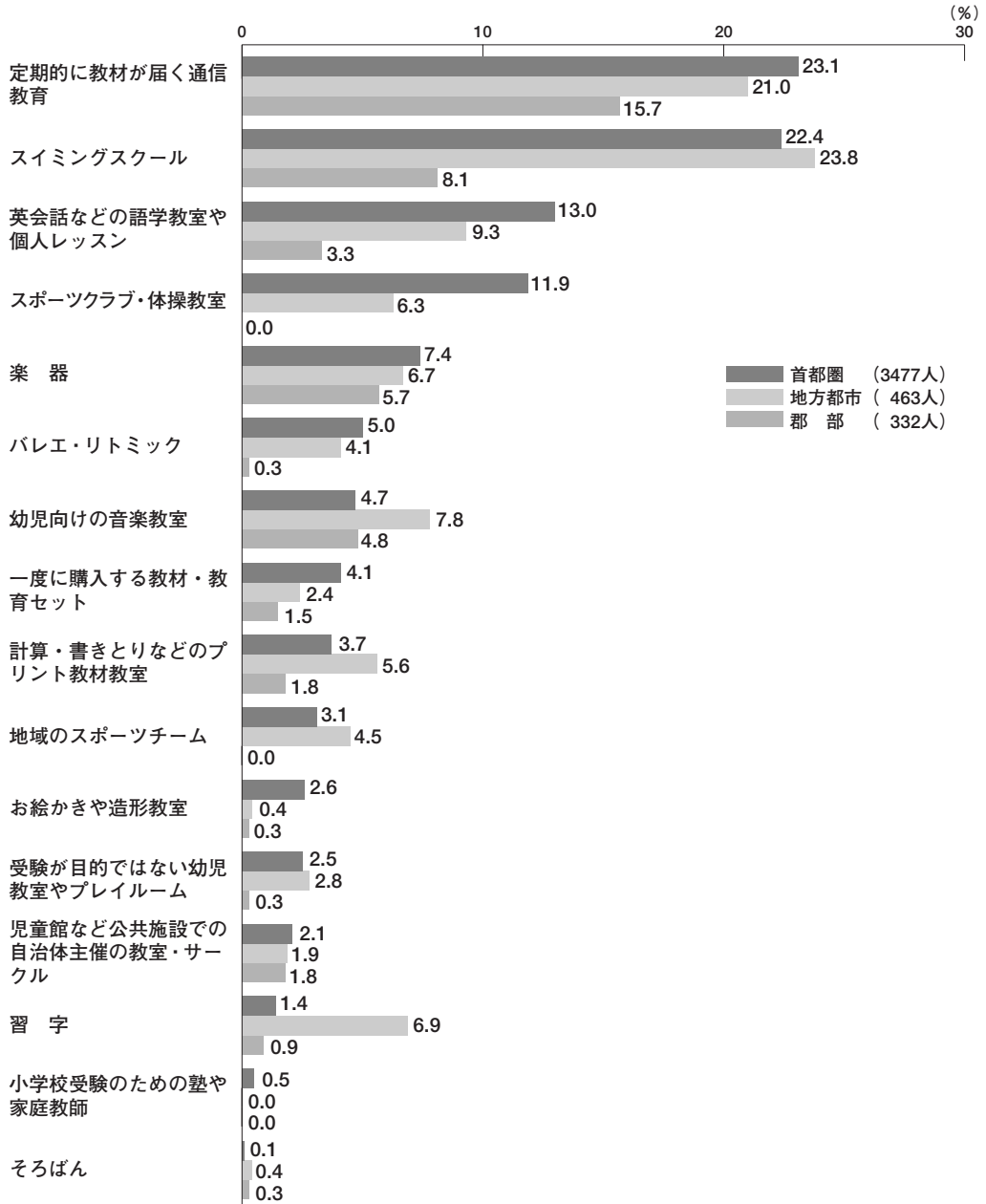
期的に教材が届く通信教育」23.1%、「スイミングスクール」22.4%、「英会話などの語学教室や個人レッスン」13.0%、地方都市は、「スイミングスクール」23.8%、「定期的に教材が届く通信教育」21.0%、「英会話などの語学教室や個人レッスン」9.3%、郡部は、「定期的に教材が届く通信教育」15.7%、「スイミングスクール」8.1%、「楽器」5.7%である。郡部の「英会話などの語学教室や個人レッスン」は第5位で、やっている割合もわずか3.3%と首都圏の4分の1である。

最後に、1か月にかかる習い事などの教育費について地域別にみてみよう(表6-2)。1か月にかかる教育費の平均は、首都圏5,607円、地方都市4,837円、郡部2,194円と、習い事をやっている割合を反映して首都圏と郡部では倍以上異なる。

■図6-8 習い事の割合(地域別)



■図6-9 習い事の内容(地域別)



■表6-2 教育費の平均(地域別)

首都圏 (3457人)	5,607円
地方都市 (459人)	4,837円
郡部 (331人)	2,194円

注) サンプルから無答不明は除いている。

第5節

母親の満足度と子育ての楽しさ

子どもの生活習慣やしつけの状況に対して、首都圏、地方都市、郡部とも6割以上の母親が「満足している(とても+まあ)」と答えている。また、どの地域でも9割近くの母親が子育てを「楽しい(とても+まあ)」と感じている。

◆◆生活習慣やしつけの状況に対する満足度

母親の満足度について地域別にみてみよう(図6-10)。まずは、子どもの生活習慣やしつけの状況に対する母親の満足度について検討しよう。「お子様の生活習慣やしつけの状況に全体として満足していますか」という問いに、「とても満足している」+「まあ満足している」と回答した母親はどの地域でも6割を超えるが、その割合は首都圏70.0%、地方都市64.8%、郡部62.0%と首都圏の満足度が若干高い。

次に、母親としての満足度について注目してみよう(図6-11)。「かなり満足している」と「まあ満足している」と回答した合計は、首都圏72.4%、地方都市73.4%、郡部65.3%である。首都圏、地方都市と比べると郡部の満足度は低い。「あまり満足していない」と「ぜんぜん満足していない」の合計をみると、郡部の母親は3人に1人(33.4%)が満足していないということになる。

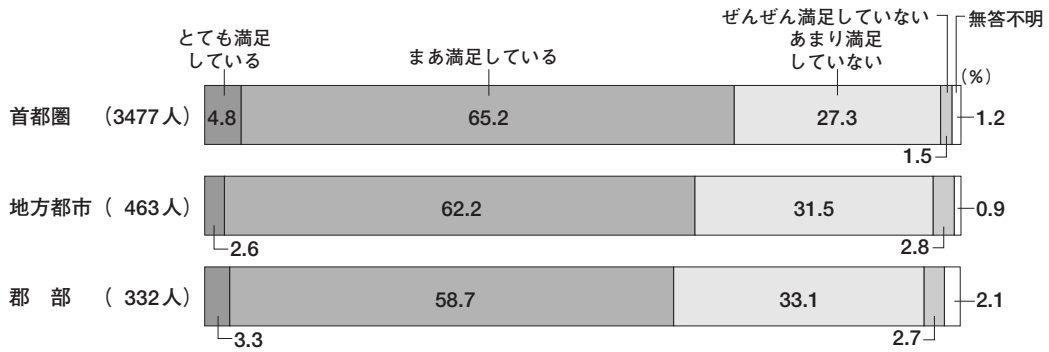
ちなみに、今回の調査ではその他にも、妻としての満足度、働く(活動する)女性とし

ての満足度、ひとりの人間として総合した満足度についてもきいている。「かなり満足している」と「まあ満足している」の合計の割合でみると、妻としての満足度(首都圏61.6%、地方都市61.3%、郡部56.9%)、ひとりの人間として総合した満足度(首都圏61.9%、地方都市64.6%、郡部55.1%)ともに、郡部の割合が若干低い。しかし、働く(活動する)女性としての満足度については、首都圏41.2%、地方都市37.4%、郡部51.5%と、郡部の値が首都圏、地方都市よりも10ポイント以上も高い(図省略)。

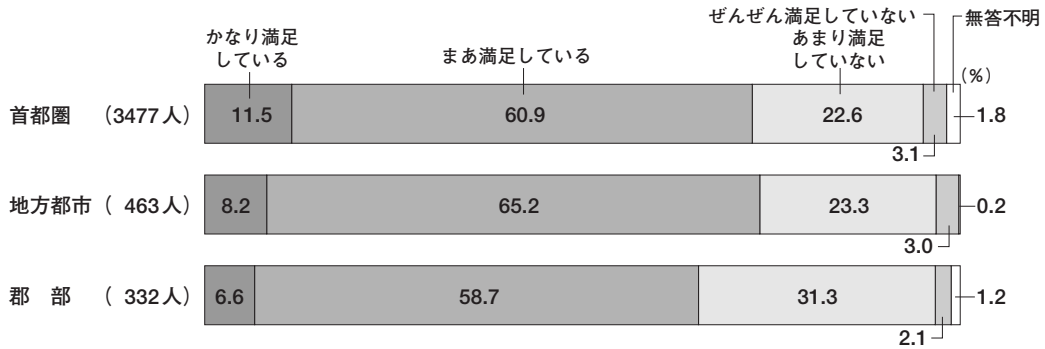
◆◆子育ての楽しさ

最後に、子育ての楽しさについて地域別にみてみると(図6-12)、「とても楽しい」と「まあまあ楽しい」と回答した合計で、地域ごとの大きな差はなかった(首都圏87.7%、地方都市85.7%、郡部88.0%)。前述したように、満足度については地域ごとで若干の差がみられたが、子育ての楽しさという面では、どの地域でも9割近くの母親が子育てを楽しんでいるということがわかる。

■図6-10 生活習慣やしつけの状況の満足度(地域別)



■図6-11 母親としての満足度(地域別)



■図6-12 子育ての楽しさ(地域別)

